

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第6号 —
平成22年8月5日発行
発行 草加市立病院
編集 経営管理課
〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号
☎ 048 (946) 2200(代)
HP 草加市立病院 検索

草加の医療を考える

市立病院は二次医療機関

市立病院を受診する患者さんは年々増え続け、昨年度の外来延べ患者数は草加市の人口に匹敵する23万人を超えています。この状況が続けば入院治療を主体とした二次医療機関としての役割が十分に果たせなくなることが懸念されます。

今回は草加八潮医師会 松本眞彦会長と市立病院 高元俊彦病院長のお二人に、それぞれの立場と経験から、草加の一次医療を担う診療所や二次医療を担う市立病院の現状をお話いただき、草加の医療のあり方を考えてみました。



草加八潮医師会
松本眞彦 会長

高元 市立病院は二次医療を担う医療機関として、地域の先生方から紹介された患者さんをはじめた皆さんの重症患者さんを受け入れてきました。しかし、まだ多くの軽症の方でも来院され大変混雑しています。特に若い方や普段健康であまり病院にかかったことがない方が、軽い症状でも市立病院を受診される傾向が強いです。そのほか引越してきたばかりで市立病院しか知らない、あるいは自分にとっての「かかりつけ医」がない、知らないというケースも多いです。



市立病院
高元俊彦 病院長

初診の患者さんが市立病院に集中

松本 私は地域で整形外科のクリニックを開業して22年になります。外傷や慢性の関節症などほとんどの患者さんを受け入れ手術も行ってきましたが、脊椎疾患など治療が困難な場合は市立病院にお願いしているという状況です。最近では地域の医師会の先生方も高い治療技術を有する方が増えてきていますが、やはりそれぞれの先生方の専門性にも限界がありますので、そこを市立病院にお願いしたいわけです。

医師の負担が増加

松本 初診で市立病院に行ってしまう人が多いわけですね。予約無しで受診すると2〜3時間待ちということも聞きますが、患者さんを診察する医師の負担はどうでしょうか？

高元 外来担当医師は現在ギリギリで回っている状態です。例えば小児科ですが、当院は他の市立病院に比べ恵まれていて、常勤医師8名と大学からの応援態勢で24時間の診療を行っています。それでも当直勤務の時は朝まで全く休みなしで働くことが日常的に繰り返されています。また、一時期減少した時間外受診者数は昨年度から再び増加しています。できれば時間外でも早い時間帯の受診をお願いしたいと思っていますが…。

松本 市立病院に行けば何でも診てくれるというようなイメージや期待があるのだと思います。それに日本では欧米とは異なり、フリーアクセスなのでどの病院でも受診できる仕組みになっていますよね。しかし、草加市の医療ニーズ全てを市立病院だけで対応することは現実的に不可能で、地域に密着した医師会や一次医療機関の存在は欠かせないわけです。

まずは「かかりつけ医」への受診を

高元 市民の方にはまず一次医療を担う「かかりつけ医」の存在を知っていただく必要があると思いますので、直接来院された初診の方にも、次回からの診療を積極的に地域の先生方をお願いする流れを作っていきたいと思っています。

松本 我々医師会側については、「かかりつけ医」が医療の交通整理役として機能していくことが大切ですね。必要と思えば適切に専門医のいる病院に紹介し、検査や手術、入院ができるように調整する。また、病院から戻れば再び担当医として診療する。こうした一次医療機関が持つべき役割をしっかりと果たしたいですね。ただ、医師会の先生が市立病院の先生に患者さんを紹介する場合、個人的なルートでお願いする場合がいまだに多いと感じるので、今後は医師会と市立病院の組織的な連携がこれまでに必要でしょう。それと市立病院では女性医師も増えましたね。特に若い先生方は個人の生活も大切にされていますから、厳しい医療現場からお医者さんが逃げ出さないような環境づくりも病院長として考えてあげてください。

高元 市立病院は2年後に脳血管病や心臓病をいつでも受け入れることのできる救命救急センターを開設します。埼玉東部地域の中でもっとも先進的な医療機関を目指したいと思っています。

松本 医師会は草加・八潮地域における地域医療を最終的に草加で完結するシステムをつくっていききたいと思っています。そのためには市立病院というパートナーシップを構築していききたいですね。

病院を支える人



内田憲一 さん

音楽の力で元気を与えたい

「患者さんに何かできることはないか」。市立病院で入院患者さんを前に躍動感あふれる演奏を披露する「早稲田の杜金管合奏団」の内田憲一さん。

「この日のためにメンバーたちと練習を重ねてきました。金管の大きな音が心配でしたが、患者さんが最後まで聴き入ってくれて、うれしさがこみ上げてきました」と満足した表情。

また、多くの患者さんを目にし、「市民の一人として医療センターが稼働する日を心待ちにしています」と期待を寄せます。



7月17日に病院エントランスホールで行われた演奏会

ご注意ください!

お電話の掛け間違いが多くなっています。番号をよくお確かめのうえ、お掛けください。

草加市立病院
[電話] 048-946-2200(代表)

— 緊張感の中でも心のこもった看護を実践 —

急性期医療を担う看護師たち

急性期医療に力を入れている市立病院。病状が不安定で入院生活に不安を抱える患者さんやそのご家族に一番近い存在である看護師は、処置や手術などができるだけ苦痛がなくスムーズに行えるよう患者さんをサポートしています。市立病院でどのような看護を行っているか伺いました。

ご家族にも寄り添った看護を

ICU・CCU 持永麻衣さん

緊張感のあるICU

され、それだけ患者さんの状態管理が重要で緊張感のある部署と言えます。

ICUでは、心肺停止や出血性ショックの方など重症度の高い患者さんや手術直後の患者さんの看護を行っています。モニターなどの医療機器に囲まれ、人工呼吸器を装着した方、一人では動けない方、挿管されて話すことができない方などが入院



うケアが変わってくるため、意識がない場合であっても励ますように患者さんに声をかけています」とわずかな身体変化を見逃さないよう患者さんと向き合っています。

ご家族への看護も

このように患者さんと対面するのは看護師などの医療スタッフだけではありません。患者さ

んのご家族も同様で、入室当初は病状を受け入れられないことが多くあります。

「医師からの説明もその場では理解したと思っても、事態の深刻さであまりよく理解できていなかったということもあります。その場合に私たちが改めてゆっくりお話しをすることで、徐々に現状を受け入れ、病状を理解していただくように努めています。特に言葉遣いには気を配ります」と患者さんのご家族への看護も大切にしています。

コミュニケーションを大切に

患者さんへの集中的な処置が終わると他の病棟へ移ったり退院されたりするため、ICUでの入院期間はおおよそ2～5日程度と短期間。

「患者さんやご家族と関われる時間はとても短いものです。その時間の中で一番近くで支え、励ますことで信頼関係を築いていかなくはなりません。そのためにもコミュニケーションを



大切にし、患者さんの痛みや不安、そしてご家族の思いを常に考えられる看護師でいたいですね」と話していました。

良き仲間にもまれて

7階東病棟 小林大輔さん

先輩看護師からのサポート

7階東病棟で働く小林大輔さん。循環器科、内科などの患者さんを担当しています。

「入職当初は看護技術や知識、患者さんの接し方などを指導するプリセプターと呼ばれる先輩看護師がマンツーマンで指導してくださるのですが、プリセプターが忙しくて離れたときでもほかの先輩看護師が私に常に声をかけてくれるので、不安



なく安心して仕事に取り組むことができました。研修や職場に入った後のフォローが充実しているところは市立病院の良さですね」と新人だった頃を振り返ります。

最近ではチームで行う看護の

充実した看護師教育 — 新人看護師に手厚いサポート —

市立病院では看護師研修に力を入れています。高度化・複雑化した医療現場で第一歩を踏み出す新人看護師がそれぞれの能力を十分に発揮できるよう、プロジェクトチームを組み看護教育を行っています。感染予防、食事援助、与薬、救急看護などの実技や講義に加え、各部署でのマンツーマンによる指導により理解を深められるよう支援しています。常に質の高い看護を提供できるように新人研修後も段階に応じた教育を継続的に行っています。





楽しさを実感し、「患者さんが安心して入院生活を送れるよう入院計画を考えると、先輩看護師から私がいもつかかった方法や患者さんへの見方が飛び出し、いい刺激になっています。議論を重ねる中で自分の提案が取り入れられ、入院生活にそれを反映させ、患者さんが無事退院されたときは本当にうれしいですね」と話します。

患者さんから得たもの

良き仲間に関われ、充実した日々を送る小林さん。病棟で勤務する中でスタッフからだけでなく、患者さんから得たものも大きいとか。

「先日は心機能の悪化で瀕死の状態で緊急入院された患者さんが、懸命の治療によってわずか一週間程度で普通に歩けるほどに回復されました。高齢の方でしたが、生命力の凄さに驚き、勇気づけられました。これ

からも患者さんと一緒になって病気に立ち向かっていくという思いが強くなりました」と力を込めます。

迅速な対応を

循環器疾患を持つ患者さんは数時間前までは普通に会話ができても、突然変調をきたすことがしばしば起こります。担当する看護師には異変を敏感に察知する鋭い感覚や的確な判断、迅速な対応が必要とされます。その中で小林さんは「日々の丁寧な観察が重要で「あれ、変だな」「いつもと違う」という感覚を大事にしています。また、急変時に迅速で適切な対応ができるよう、勉強会で場面を想定した訓練を重ねています。患者さんの苦しみが少しでも和らぐようサポートするのが看護師の役目。緊急時でも思いやりのある看護を実践していきたいですね」と話していました。



手術室看護師は市立病院の全診療科の手術を受け持ちます。診療科や患者さんによって術式は様々。

「医療の世界は日進月歩。その変化についていくため、手術室看護に必要な知識や技術につ

変化についていくために

市立病院では6つの手術室で年間2000件以上の手術を行っています。その手術室で看護を行っている永井正恵さん。

手術室看護師の仕事は、手術前に病棟にいる患者さんを訪問することから始まります。

「初めて手術を受ける方はかなり緊張されています。また、患者さんが手術を受ける決心は並大抵なものではないと思います。その決心に十分応えられるよう、患者さんが不安に思っていることを聞き、不安を少しでも和らげられるよう心がけています。それでも泣き出してしまいう方もいて、時には患者さんの手を握って緊張をほぐすようにしています」と安心して手術に臨めるようサポートしています。

手術前の看護

安心して手術に臨んでいただくために

手術室 永井正恵さん

いて日々勉強しています。全診療科をカバーするため範囲が広いですが、必ず習得しておかなくてはいけないことです」と専門性を高める努力を怠りません。

一緒に闘っている実感

そして手術室へ。業務は「器械出し」と「外回り介助」に分かれます。器械出し業務を行う看護師は、手術中に医師の隣に立ち、手術器材を医師の手に渡す業務を行います。「この業務は、ただ医師に言われた器械を渡すのではなく、手術の進行状況に合わせて、次の展開を予測しながら準備を行いつつ器材を渡していきます。執刀医とうまくタイミングが合うよう全神経を集中させます。一緒に闘っているという実感が一番ある仕事ですね」と話します。

また、外回り介助業務を行う看護師は、手術の進行状況に合わせて、必要な器材の追加や医療材料の提供を行います。「円滑に手術が進行するよう、手術室全体の動きを把握しなければならず、執刀医やほかの看護師の動きから一瞬も目が離せません」と話します。



患者さんの命に直結する手術室看護。「緊張の連続ですが、その中で患者さんの安全を守り、無事に手術が終わった時に大きなやりがいを感じます。また、手術後に「怖くなかった」「心配していたけど大丈夫だったよ」と患者さんから感謝の言葉をいただくことがあります。こんな時は何よりうれしく思います」と手術室看護のすばらしさを話してくれました。

手術室看護のすばらしさ



市立病院では医療スタッフ（正職員）を募集します

看護師

■平成23年1月採用（経験者対象）

- ・受験資格 昭和40年4月2日以降に生まれた人で、看護師免許を有する人
- ・募集人数 20名
- ・試験 平成22年10月3日（日）午前10時から
- ・試験内容 論文、個別面接
- ・試験会場 市立病院
- ・受付期間 平成22年9月1日（水）から9月17日（金）までの午前9時から午後5時まで（土・日曜日を除く）
※代理持参可・郵送受付可（9月17日必着）

■平成23年4月採用

- ・受験資格 昭和40年4月2日以降に生まれた人で、看護師免許を有する人、または平成23年4月1日までに免許取得見込みの人
- ・募集人数 30名
- ・一次試験 平成22年9月19日（日）午前9時30分から
- ・試験内容 （一次）一般教養、論文
（二次）個別面接
- ・試験会場 （一次）獨協大学
- ・受付期間 平成22年8月9日（月）から8月25日（水）までの午前9時から午後5時まで（土・日曜日も受け付けます）
※代理持参可・郵送受付不可

薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、助産師

■平成23年4月採用

- ・受験資格 昭和40年4月2日以降に生まれた人で、上記職種の免許を有する人、または平成23年4月1日までに免許取得見込みの人
- ・募集人数 各職種 数名
- ・一次試験 平成22年9月19日（日）午前9時30分から
- ・試験内容 （一次）一般教養、論文
（二次）個別面接
- ・試験会場 （一次）獨協大学
- ・受付期間 平成22年8月9日（月）から8月25日（水）までの午前9時から午後5時まで（土・日曜日も受け付けます）
※代理持参可・郵送受付不可

※応募書類などは病院ホームページからダウンロードできます。☎経営管理課 ☎946-2200 ㊟ 3003

臨床研修の現場から

— 市立病院で育つ若い力 —

医師免許取得後、2年間義務づけられている臨床研修制度。市立病院は厚生労働省から臨床研修病院としての指定を受け、平成16年から研修医を受け入れています。今年度は全国から集まった11名の研修医が医療現場で研修を行っています。研修医は指導監督する上級医の指導のもと、複数の診療科で研修し、医師として必要な基本的な知識や技術、態度を身につけます。地域医療の現場で奮闘する2名の研修医取材しました。



— 麻酔科研修 —

愛着のある草加で研修を

高野恭平医師

術前に信頼関係を

草加市出身で今年医学部を卒業した高野恭平医師。愛着のある地元で研修を受けたいと市立病院を選びました。まず行っているのが麻酔科の研修。「安全な麻酔のためには手術前の回診から」と病棟に向き患者さんを診察。既往歴や使用できない薬がないかを確認するとともに、心臓や呼吸器機能などを調べ、手術に十分耐えられるかを確認します。「この回診が重要で、患者さんにとっての最適な麻酔法や注意すべき点を知ることができただけでなく、コミュニケーションをとることで信頼関係を築ける」と話します。



命の現場で

手術当日。患者さんに点滴をし、「これから眠くなります



すね」と優しく声をかけ、酸素マスクを着用します。眠りに入ったことを確認し、麻酔科の松澤吉保医師の指導のもと人工呼吸に必要な細い管を喉にゆくりと入れていきます。「患者さんは極限の状態であり、麻酔中は一瞬たりとも気が抜けない」と高野医師は患者さんやモニターの動きに神経を集中させます。

「手術中も患者さんの状態が不安定になってしまったときに備え、常に対策を考えたりと緊張の連続ですが、今後どの診療科に進んでも役立つことばかり。食欲に知識や技術を吸収していきたい」と充実した表情でこの日の研修を終えました。

草加の医療に貢献したい

今後何らかのかたちで草加の医療に携わりたいと話す高野医師。「研修後はほかの病院や大学でも研鑽を積み、将来再び市立病院に戻り、地域医療に貢献したいです」と意欲を見せていました。



— 小児科研修 —

この科だから感じる喜び

里見瑠璃医師

現場で考えて

小児科で研修を受けている里見瑠璃医師。この日は朝8時半から上級医とともに小児科病棟で回診。まず、子どもの表情を見て元気があるかどうかを確認。ご飯を食べているかなど子どもの様子も一緒にいる親から聞き取ります。「このような基本的なことを自分



地域で医師を育てる時代に

市立病院
臨床研修プログラム責任者
診療部長 矢内 常人

新医師臨床研修制度が始まって今年で7年目を迎えました。初年度は4名でしたが、今年は11名の研修医を受け入れることができました。近年は草加市や周辺の出身者が当院で研修を希望され病院を訪れるようになりました。

科と地域診療所実習が必須になりました。つまり大学病院や研修病院だけでなく、地域で医師を育てる時代が来たということです。

病院と地域の診療所が協力して新しい医師を育てることにより地域医療が活性化され、医療崩壊を食い止めることができる信じ、より魅力的な研修を模索して行きたいと思っています。



置が必要と判断すれば採血や点滴を実施。子どもの細い糸のような血管を指先のわずかな感覚でたぐり寄せ、針を入れていきます。「未来のある子どもを救うためと思えば大変さは吹き飛んでしまいます」と話します。

大きな喜びを実感

子どもを元気にするために苦勞を惜しまない里見医師。

「病院に來たときぐったりしていた子どもが元氣になって退院する姿を見ると心からうれしい気持ちになりますね。

子どもを病氣を治すことができれば、ほかの科では感じることができない大きな喜びになります」と笑顔で話していました。

子どもを救うために

午後是一般外来が終了し、吐血やけいれんなど急病の患者さんが親に連れられ救急外来へ。恐怖感から暴れる子どもも多く、複数のスタッフで対応することもしばしば。処